

NEWSLETTER

No. 42

6 January 2009

・2008年地理学教室の行事記録	・・・・・・1
・第8回地理ワークショップの開催	・・・・・・2
・第11回国際サンゴ礁シンポジウムに参加して	・・・・・・3
・ヨルダン地溝帯の活断層調査	・・・・・・3
・2008年度地理実習の記録	・・・・・・4
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・・・9
・2008年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・10
・国士舘大学地理学会費の納入について	・・・・12

【2008年地理学教室の行事記録】

1月 6日	世田谷の歴史地理巡検（岡島）
2月 6日～ 8日	平成19年度卒業論文公開口頭試験
5月 2日	野外生物観察会（鶴川キャンパス：磯谷）
5月18日	野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
5月20日～ 21日	1年生地理学野外実習
6月12日	国士舘大学地理学会（梅ヶ丘校舎34号館B304教室） ＜講演会＞ 宮地忠幸先生（本学専任講師） 「低食料自給率の背景と日本農業の地域的課題」 ＜総会＞ 34号館B304教室 ＜懇親会＞ 1号館地下（スエヒロ学生食堂）
7月29日～ 30日	第8回地理ワークショップ（中央図書館4階 AVホール） 「北アメリカ 多様な自然と社会」 参加者52名
9月 8日～ 9日	国士舘大学地理学会巡検（群馬県嬲恋村など：磯谷，宮地）
10月 1日～ 2日	2年生地理学野外実習
10月21日～ 24日	3年生地理学野外実習
12月20日	国士舘大学地理学会（於 世田谷キャンパス10号館10329教室） ＜講演会＞ 末吉健治先生（福島大学教授・本学非常勤講師） 「企業内地域間分業～経済活動の地域的差異～」 ＜研究発表（実習課題報告）＞ 市川拓弘，数馬清宏・坂本雄太，向後知美， 佐々木貴宏，高野淳一郎，福島 清，柳沢康二 ＜懇親会＞ 1号館地下（スエヒロ学生食堂）
12月25日	世田谷の歴史地理巡検（岡島）

重要事項！必ず読むこと！

研究室，図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。
4年生で未返却の者は，卒業資格を満たしていないとみなします。

【第8回地理ワークショップの開催】

「北アメリカ 多様な自然と社会」
社会科教員のための地理ワークショップ

地理学教室では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、主として中・高の先生方を対象に、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきていますが、今年は7月29～30日の2日間、中央図書館のAVホールで開催されました。今年は、大統領選挙をひかえたアメリカの現状やホットな話題をアメリカ在住の地理学者である山本大策先生（セントラルミシガン大学；Central Michigan University）から伝えてもらうことが一つの目玉でした。全国から多数の申し込みがありましたが、会場の都合で先着54名の中・高校の先生方の参加を受け付けました。プログラムと担当者は下記の通りです。

教室の教員が担当した講義以外にも、他大学からワークショップの趣旨に賛同いただいた東郷先生、高柳先生、山本先生のいずれも現地での経験をふまえた貴重な話しをしていただきました。ホットな話題を提供するという意図は、十分に伝わったと思います。

プログラム（講義と担当者）

7月29日（火）9:50～17:00

- 地理で気候を教えるには：北アメリカを例として 野口 泰生（国土舘大学）
 - デルタ、湿地、サンゴ礁：フロリダ、カリブ海の海岸と温暖化の影響 長谷川 均（国土舘大学）
 - 北米西部の火山と変動地形 東郷 正美（法政大学）
- ※ 交流会（17:15～19:00：講師の先生方、教室スタッフと地理教育について語る機会を設けました）

7月30日（水）10:00～17:00

- グローバル化とアメリカ農業 高柳 長直（東京農業大学）
- アメリカ合衆国の地域間経済格差の変動 山本 大策（Central Michigan Univ.）
- 北米における持続可能な観光への取組み 山本 大策（Central Michigan Univ.）



若林学長からの挨拶



長谷川先生からの趣旨説明等



山本先生からの講義



受講者からの熱心な質問に答える高柳先生

○地理学教室ではさまざまな国際的な活動も行われております。今回はその1コマとして、国際学会への参加報告と夏期の海外調査に関する報告を、いずれも長谷川先生から寄稿してもらいました。

【第11回国際サンゴ礁シンポジウム（11th International Coral Reef Symposium）に参加して】

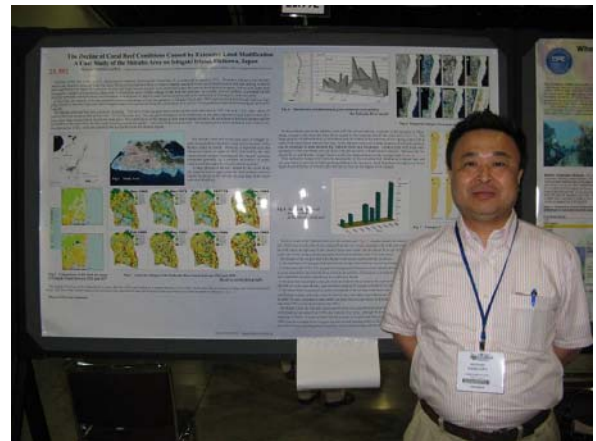
オリンピックイヤーに開催される国際サンゴ礁シンポジウムが、今回はアメリカ、フロリダ州のフォート・ローダーゲールで、7月7日～11日に開催されました。このシンポジウム、前は沖縄で開催されましたが、この頃から規模が大きくなりました。今回は世界から2,500人の参加者があり、発表数は口頭発表が約600件、ポスター発表が約1,200件という大規模なものでした。幕張メッセより大きいと思われる巨大な国際会議場で、多数の会場に別れて開催されました。会場を移動するだけでもくたびれ果ててしまうほどの規模で、学会というより博覧会か見本市のような有様です。環境激変といわれる現在、サンゴ礁が注目を集めていることは悪いことではないのですが、それにしても学会というよりお祭りのような騒ぎで、私は正直なところ少しゲンナリしました。

サンゴ礁を持つ国は、開発途上国が多いわけですが、学会の規模が大きくなりすぎて、途上国では開催を引き受けられなくなってしまいました。次回の開催国を決めることができなかったということで、この学会の運営やシステムの見直しをせまられることにもなりそうです。

さて、長谷川の発表ですが、単独1件、共同研究1件の2件についてポスターセッションで行いました。

ポスター発表というのは、大きなポスターを貼りだし、定められた日時に2時間ほどポスターの前に立ち、やってくる聴衆に説明するという発表のしかたです。最近では国内外を問わず、自然科学の学会ではこの発表のしかたが主流になりつつあります。私は、開発行為に伴う環境悪化によって、サンゴ礁浅海域の環境悪化が進行し、富栄養化から海草藻場の拡大が起こり、それによって造礁サンゴの生息域が狭まるという現状を報告しました。この発表に対して、詳細な陸上調査と、多時期の空中写真、GISを駆使した技術に関して、とくに開発途上国の研究者の注目を集めたようです。

会場となった、フォート・ローダーゲールは、マイアミの南にある都市です。州島と埋め立て地の上にあり、運河が通じる美しい都市でした。金持ちが住むという邸宅が運河に沿って建ち並び、庭先にはクルーズ船が係留されているようなところです。私の第一印象は「日本のクルーズ船なんて、オモチャみたいなもの・・・」。



（長谷川均）

【ヨルダン地溝帯の活断層調査】

8月1日～10日の間、長谷川均（地理学教室）、後藤智哉（本学大学院博士課程）、東郷正美（本学大学院非常勤講師、法政大学社会学部教授）の3名は、ヨルダンハシミテ王国のNRA（国立資源庁）と共同で、ヨルダン地溝帯の活断層調査に出かけました。2月に、NRAの倉庫で1950年代頃の大量の空中写真を発見しその判読を行いました。今回はその結果を携えて、現地で変動地形を確認するという、今後の本調査に向けての予備的な調査を行ってきました。

乾燥地域で植生が乏しいので、日本ではお目にかかれなような見事な変動地形を目の当たりにすることができます。ヨルダン地溝帯は現在では一大農業生産地域になっており、地形改変も著しいのですが、それでも多数の変動地形を直接観察することができました。今後は、日本で少し大きな予算を獲得し活断層の発掘調査をしたいと考えています。また、変動地形以外にも、最終氷期以降の環境変遷と景観変化を明らかにすること、死海低地帯北部において、近年における急激な開発と環境悪化の実態を明らかにすることをテーマに、研究を進めたいと考えています。

（長谷川均）



共同調査隊のメンバー

左端が長谷川、一人おいて東郷、右から二人目が後藤

【2008年度地理実習の記録】

1年生地理学野外実習A：5月20日（火）～5月21日（水）実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実施地：川崎市麻生区古沢地区，横浜市寺家ふるさと村

参加学生数：74名（男子60名，女子14名）

テーマ：丘陵地の自然環境と人間生活 ―映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く―

目的：多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い，地形と土地利用の関係，都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて，地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課題：図表を含めて400字詰め原稿10枚以上相当のレポート（「丘陵地の自然環境と人間生活」）。
提出日時…7月4日（金）1限「地域調査法」授業時間（予定：実際は全学休講で延期）



川崎市麻生区古沢地区にて
新百合ヶ丘駅徒歩圏ながら都市化されていない地区



川崎市麻生区古沢地区にて
地図を片手に土地利用調査中

地理学野外実習B（2年生対象）：10月3日（火）～4日（水）実施

◎野口

実施地：実施地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：12名（男子8名，女子4名）

テーマ：霧ヶ峰高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する

内容：

- 1) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系，「風と地形→積雪と凍結融解→植生」の関係
- 2) 霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ
- 3) 霧ヶ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで）：黒曜石，狩場，採草地，スキー場，警察犬，ハイキング

課題：

◎事前の準備：次の論文を読み，霧ヶ峰における気候環境と地形との関係を理解しておくこと。

- ①野口泰生(1975) 霧ヶ峰高原における風の分布に及ぼす微地形の影響について，天気，22，85-94.
- ②野口泰生(1999) 長野県中信高原・霧ヶ峰の気候環境：第二次大戦中の山岳測候所資料と最近の現地観測から，国土館大学文学部人文学会紀要，32，47-68.
- ③岩塚守公・守屋以智雄(1965) 霧ヶ峰高原の無土器文化遺跡とそれに関係した若干の古気候地形学の問題，地学雑誌，74，239-243.

◎レポートの提出について：上記3つの文献，地理実習資料，現地での説明をもとに，霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動などの役割を説明せよ。

注) レポートのタイトルは「巡検レポート」のようなあいまいなものではなく，内容を適格に表現するものであること。巡検レポートは卒論を書くための練習でもあるから，論文の体裁に慣れるため，「レポートの書き方」に従って章編成で作成すること。

◎長谷川

実施地：三浦半島南部，城ヶ島
参加学生数：10名（男子5名，女子5名）
テーマ：海岸地形，海成段丘や地層の観察方法を学ぶ
内容：この地域でみられる種々の地形や堆積物の観察方法を二日間にわたって学習した。
課題：A4・20枚程度のレポート。

◎岡島

実施地：鎌倉市
参加学生数：11名（男子5名，女子6名）
テーマ：歴史都市鎌倉の近現代における変遷過程
内容：鎌倉市街地における現地調査，化粧坂切通・重要景観建築物・和賀江湊の見学
課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。



岡島班 鎌倉市街地にて景観調査

◎内田

実施地：千葉県南房総市周辺
参加学生数：12名（男子9名，女子3名）
テーマ：風景の鑑賞法と観光地の記号論的解説
内容：①風景論の基礎，および風景の観賞方法について実習する。
②首都圏に近い海洋型温泉観光地である南房総国立公園の人文・自然景観が，観光資源としてどのように利用されているかを，実際に眼と肌で確かめ，その意味を記号論的視点から解説する。
課題：レポート1・南房総の風景美について，レポート2・観光地の記号としての風景・温泉・施設以上2つのレポートを完成させる。



内田班 鋸南町・大黒山展望台より

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面
参加学生数：5名（男子4名，女子1名）
テーマ：山地帯～亜高山帯の植生
内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。
課題：提示された課題について，図表を含めて8000字相当以上のレポートを提出する。



磯谷班 観察中

◎加藤

実施地：八重洲通り，さくら通り・明正通り，八重洲仲通り，昭和通り，八重洲1・2丁目，日本橋3丁目，京橋1丁目，中央区立京橋図書館，中央区役所，銀座通り
参加学生数：11名（男子9名，女子2名）
テーマ：東京都心部における空間利用とその変化
内容：東京都心部における水平的・垂直的な空間利用について，街路別空間利用や施設分布などを，調査することを通して，都心部の空間利用パターンとその変化を捉え，それらの要因や背景を学んでいく。
課題：調査結果に関する図を作成し，調査結果にもとづいた内容についてレポートする。



加藤班 各班ごとに調査に出発

◎宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：12名（男子9名，女子3名）

テーマ：山村における地域振興策の意義を考える―農村調査法を学ぶ―

内容：山村の地域経済や社会（集落コミュニティーなど）の変化とその要因を把握する一方で、地域活性化へ向けた取り組みの意義を、統計資料の収集や土地利用、施設分布、関係諸機関や関係者からの聞き取り調査などを手掛かりに考察する。実習を通して農山村の調査方法を習得する。

課題：1) 事前学習

①次の3編の論文について、内容を取りまとめる。

- ・ 関戸明子 1994. 都市との交流事業による地域活性化 ―群馬県川場村中野の事例―. 群馬大学教育学部紀要（人文・社会科学編），43号，pp.173-188.
- ・ 関戸明子 1993. 都市住民との交流によるむらづくり事業の展開. 農業と経済，第59巻14号，pp.124-131.
- ・ 中島直子 1992. 群馬県川場村における農林業と観光化. お茶の水地理，33号，pp.45-56.

②川場村ホームページから入手可能な統計データについて、各自、データをExcelに入力した後、図や表にまとめ、そこから読み取れる内容をレポートする。また、現象の変化がなぜ生じているのかについて、可能な範囲で調べてレポートする。

①と②を6枚程度のレポート（1ページ1,600字）にまとめる。

2) 事後レポート

事前学習レポート、現地調査結果（図表，写真を含め）を10～15枚（1ページ1,600字）程度にまとめる。



宮地班 農家調査
農業経営や地域づくりの取り組みを聞き取り



宮地班 「田園プラザ」内のファーマーズ
マーケットを見学

地理学野外実習C：10月24日（火）～27日（金）実施

◎野口

実施地：埼玉県熊谷市，秩父市，長瀨町

参加学生数：9名（男子5名，女子4名）

テーマ：公的気象データと観測によるデータ

- 内容：①アメダスデータ，気象官署データの入手・処理・作図
②地方気象台の役割・観測業務の理解（熊谷地方気象台の見学）
③学生による観測と作図（秩父市内のヒートアイランド現象の観測と補正・分布図の作成）
④埼玉県自然の博物館の見学（長瀨町）

課題：各自でテーマを設定して書くこと。卒論を書くための訓練であるから，問題（疑問）を設定し，それについて調査・観測を行い，考察をする。レポートの書き方は，「卒業論文の手引き」に準ずる。

◎長谷川

実施地：伊豆大島
参加学生数：8名（男子6名，女子2名）
テーマ：海岸地形，火山地形，火山噴出物のリモートセンシング
内容：2人ずつ4班に分かれて調査，作業を実施した。
課題：30枚程度のレポート



長谷川班
三原山のカルデラ底をゆく火山地形班

◎岡島

実施地：前橋市および周辺地域
参加学生数：5名（男子4名，女子1名）
テーマ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査
内容例：公共交通機関上信電鉄の現状と課題，群馬県におけるモータリゼーションの実態と公共交通機関への影響，第三セクター化による特定地方線の変化，上毛電鉄の近現代における輸送の役割，桐生市における歴史的町並み保存と観光地化への取り組み
課題：各自のテーマに従ってレポート作成

◎内田

実施地：大分県大分市周辺
参加学生数：6名（男子5名，女子1名）
テーマ：各自で研究テーマを設定し，テーマに基づいた現地調査を行う
内容：「大分トリニータにみるプロサッカークラブの立地と存立基盤」，「別府のホテル・旅館の求人行動」
「大分市内の特別養護老人ホームの現状」
「大分県における郷土料理の現状」
「湯布院における観光客の現状」
「別府市民にとっての公衆浴場文化」
課題：各自設定したテーマに従って，現地で得たデータをもとに考察を行い，「ミニ論文」を作成する。

◎磯谷

実施地：伊豆半島南部
参加学生数：4名（男子4名）
テーマ：伊豆半島南部の生態環境
内容：伊豆半島南部地域において，森林・ほ乳類のいずれかを対象として，参加者が自ら設定した生態地理学的なテーマについて調査した。
課題：各自のテーマについて，A4版で30枚程度（図表を含む）のレポートを作成する。



磯谷班
フルメンバー

◎加藤

実施地：福井県敦賀市市とその周辺
参加学生数：9名（男子8名，女子1名）
テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う
内容例：敦賀駅前商店街の現状，敦賀市住民の住居移動・買い物行動，敦賀市における港湾の現状と都市構造，港湾と企業との関わり，敦賀市の昆布加工業，福井県のかまぼこ製造業－敦賀市を中心に－
課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。

◎宮地

実施地：福島県二本松市およびその周辺地域
参加学生数：8名（男子7名，女子1名）
テーマ：中山間地域における産業振興と地域づくりの実態を学ぶ
内容：1) 福島県の耕作放棄地対策や中山間地域等直接支払制度が中山間地域農業に果たしている役割，2) 有機農業実践農家の経営実態，3) 肉牛飼育農家の経営変化と優位販売へ向けた取り組みの実態，4) 特産品開発の実態とその経済効果の分析
課題：各自の調査結果を，『卒業論文の手引き』を参考に，10～15枚（1ページ1,600字）程度のレポートにまとめる。

国土館大学地理学会巡検：9月8日（月）～9日（火）実施

夏休み中の9月8日から9日にかけて、国土館大学地理学会の巡検が、群馬県嬭恋村方面にて実施されました。参加学生は計10名（1年生2名、2年生1名、3年生7名）で、教員は磯谷と宮地が同行しました。行程の概要は次の通り。軽井沢駅にて集合→旧軽井沢→白糸の滝→浅間山鬼押出し溶岩流→長野原町北軽井沢地区→長野原町大屋原集落（開拓集落）→みるく村→鎌原観音堂（天明の噴火による火砕流被害跡地）→大前駅前（「嬭恋温泉つまごい館」泊）→嬭恋村大笹地区（浅間北麓斜面における農家の垂直的環境利用）→嬭恋村田代地区（国営農地開発事業での大規模キャベツ栽培）→四阿山（あずまやさん）山麓（スキーリゾート施設等）→つつじヶ丘牧場にて昼食→湯ノ丸高原（自然学習センター）→東御市奈良原地区→東御市滋野地区（浅間南麓斜面における農家の垂直的環境利用）→信濃追分→軽井沢駅にて解散。

現地での移動には、レンタカー（7人乗り）2台を利用しました。

今回の巡検の一つの見所は、嬭恋村の農業でした。嬭恋村は浅間山北麓や四阿山東麓を中心に大規模なキャベツ栽培が展開している地域です。戦後、2次に渡る国営農地開拓事業をはじめ、県営、団体営の農地開拓事業が行われた結果、作付面積2,700haを超える日本一のキャベツ生産地域へと成長してきました。現在のキャベツ栽培は、田代地区、大笹地区、干俣地区など村の西部を中心に展開しています。とくに浅間山北麓部に位置する大笹地区では、標高約900mから約1,450mという550mの標高差を活用して農作業が行われていることで知られています。今回の巡検時には、標高約1,200m前後から1,400mにかけての圃場で収穫作業が行われている様子をたくさんみる事ができました。また、近年ではフェロモントラップを活用した減農薬減化学肥料栽培の取り組みも広がっています。こうして大量生産されたキャベツは7月から10月にかけて東京市場を中心に関東地方の市場へ約6割が出荷されていきます。2005年の東京市場における群馬県産キャベツの入荷割合は7割を超えています。また、1980年代半ば以降には、北海道や東北、近畿、中国・四国・九州の各地方にも出荷先を拡大させてきました。このような生産と優位販売へ向けた取り組みの結果、嬭恋村は「主産地」としての地位を確立しています。



写真1 嬭恋村大笹地区(標高約1,230m)でキャベツの収穫の様子を見学



写真2 四阿山(あずまやさん)と嬭恋村のキャベツ畑



写真3 浅間山と鬼押出し溶岩流

また、今回の巡検のコースは、4つの第四紀火山付近を巡るコースという点でも、興味深いものでした。4つの第四紀火山とは、北部フォッサマグナ地域に属する四阿山（あずまやさん）、烏帽子岳、草津白根山および浅間山です。これらの火山は、いずれも成層火山ですが、活動歴や発達段階が異なります。すなわち、四阿山と烏帽子岳が十数万年～数十万年前に活動が停止して発達段階の中ほどで止まっているのに対し、草津白根山と浅間山は発達段階の後期まで達し現在も活動中の火山です。そのため嬭恋村では、火山性未熟土や火山灰に由来するクロボク土が堆積した緩斜面上に、キャベツ畑やトウモロコシ畑が広くみられました。また、この地域の気候は雪があまり多くない内陸性の気候であるため、植生では多雪地型のブナ林は見られず、広い範囲がミズナラ二次林やカラマツ植林によって覆われていました。



写真4 JR 吾妻線の終点・大前駅で集合写真
宿は大前駅前の「孀恋温泉つまごい館」でした

浅間山をぐるっと一周しながら、そこに展開している自然環境と社会環境を幅広く食欲に見学して回った巡検でした。巡検日は幸いにして天候にも恵まれ、心地よい高原の風に吹かれながら各所を見学することができました。宿泊施設となった孀恋温泉つまごい館では、地元の食材がふんだんに使われた豪勢な食事を堪能するとともに、温泉も楽しむことができました。学年を超えて親交を深めた夜の語りや車中での様々な会話は、参加した学生たちにとっても学生時代の思い出の1ページになったのではないのでしょうか。(磯谷達宏・宮地忠幸)

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して可否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の可否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2008年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月9日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2009年2月6日（金）9:20～、7日（土）9:20～、9日（月）9:20～
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（よく読むこと）：

- ※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。
- ※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。
 1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
 2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないとは判別しにくい場合はカラーコピーするか、口頭試験用に白黒に書き直すこと）。
 3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
- ※ 発表では、スライドやOHP、PCプロジェクターも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（岡島）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、ノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。
- ※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員2日以上出席すること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。

【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査
2月6日(金) 9:20~12:05 <進行:磯谷>				
1	伊藤 愛	神奈川県鎌倉市に生息するハナアブ科昆虫の分類と分布について	磯谷	長谷川
2	若尾 直樹	中山間地域における農業活性化策の意義と課題 -山梨県身延町宮木農業振興組合の取り組みを事例として-	宮地	野口
3	鈴木 裕太	近代における温泉開発と鉄道について -花巻温泉、花巻電鉄を事例に-	岡島	内田
4	板垣 大樹	千葉市における大型小売店の立地展開	加藤	宮地
5	佐藤 圭	九州地方における降雨パターンの経年変化	野口	磯谷
6	井上 直哉	山形県米沢市小野川温泉における観光の現状と雇用形態	内田	宮地
7	陳 暁芬	留学生の生活時間と空間行動 -国士舘大学を事例に-	内田	長谷川
8	張 永亮	町田市鶴川団地周辺における早朝の気温分布	野口	長谷川
11	高橋 寛	地方主要都市圏の民間戸建住宅団地における居住者特性	岡島	加藤
13:00~15:25 <進行:内田>				
12	佐伯 直哉	日野市・多摩市・稲城市における農業の特徴	加藤	宮地
13	宮坂 敏行	東京都臨海部における二次草原の組成・分布と帰化率の変遷について	磯谷	野口
14	井澤 雄人	マウンテンバイクレジャーによる山地斜面の荒廃 -専用コースにおける山道の荒廃状況から見た影響-	長谷川	磯谷
15	熊倉 謙	サンゴ礁における縁溝、縁脚系地形の特徴について -喜界島・伊是名島・渡嘉敷島・多良間島における地域差とその原因-	長谷川	野口
17	中村 優	相模大野駅勢圏内におけるマンションの立地とその変化	加藤	岡島
18	柳原 文也	茨城県守谷市における住宅地開発にともなう土地利用変化と地価	加藤	宮地
20	鈴木 広樹	大気汚染物質SPMが視程に与える影響について -静岡県富士市からの富士山の見え方を指標として-	野口	長谷川
21	西川 展世	さいたま市の国道17号線沿道におけるロードサイド型店舗の立地展開	加藤	野口
15:35~17:40 <進行:宮地>				
23	大槻 裕介	冠称駅名の駅周辺地域への普及と定着について -新小岩駅を事例として-	内田	岡島
24	小澤 和総	観光資源としてのクジラの活用 -熊野・太地町と房総・南房総市を比較して-	内田	宮地
25	井上 雄弘	群馬県赤城山周辺域における常緑広葉樹の分布と再生	磯谷	長谷川
26	中川 佳子	埼玉県平野部におけるカワウの採食環境の特徴について	磯谷	長谷川
31	内田 祐貴	業務核都市の機能変化とその地域的役割 -幕張新都心を事例として-	宮地	加藤
34	池田 祐輔	近代における軽便鉄道の地域的展開 -福島県の信達軌道と飯坂軌道を事例として-	岡島	加藤
35	藤井 雅明	鎌倉市におけるオムニバスタウン計画の現状と課題	内田	長谷川

番号	氏名	題目	主査	副査
2月7日(土) 9:20~12:05 <進行:加藤>				
37	大里 亮	埼玉県における総合型地域スポーツクラブの地域性	内田	長谷川
38	阿南 允	近代に形成された軽便鉄道の展開 -福岡県両筑軌道を事例として-	岡島	野口
39	中村 薫	神奈川県相模川流域における放棄年数にともなう放棄水田群落の種組成の変化 -上流と下流の違いに着目して-	磯谷	野口
41	伊藤 敦	都心部における路上駐車対策の現状と課題 -東京都中央区を事例として-	宮地	内田
42	大槻 一城	富山ライトレール開業から見えてくる日本の路面電車の課題	岡島	宮地
43	金子 雄	産業鉄道としての足尾鉄道の形成と特質	岡島	内田
46	岩崎 慶太	照葉樹林分布限界の二次林における主な照葉樹の分布および立地環境に応じた種組成・種多様性の違いについて	磯谷	長谷川
49	近藤 博史	中国山地東部地域におけるシオジ林とサワグルミ林の分布と組成およびそれら規定要因	磯谷	野口
50	羽鳥 舞	千葉市における宿泊施設の立地展開	加藤	宮地
13:00~14:15 <進行:野口>				
53	小林 祐貴	長岡城下町における地域構成とその歴史的変遷	岡島	長谷川
54	佐々木 誠	中山間地域における農業振興策の意義と課題 -静岡県川根本町を事例として-	宮地	加藤
56	田中 祐太郎	北海道小樽市忍路湾と神奈川県三浦市江奈湾に生息するトビの行動の比較研究	磯谷	長谷川
57	関 利章	三宅島2000年の噴火とその社会的影響	内田	磯谷
2月9日(月) 9:20~12:05 <進行:岡島>				
45	竹内 えり	東北および中部日本における逆断層に伴う撓曲崖の形状について	長谷川	野口
58	沖田 裕毅	業務核都市開発の特徴とその地域的役割 -横浜みなとみらい21地区を事例として-	宮地	加藤
62	西潟 秀平	秀吉系大名によるヨコ町型城下町の建設 -池田輝政を事例に-	岡島	内田
63	池田 雄斗	奈良県明日香村における「ふるさと」演出と古都飛鳥観光の真正性	内田	宮地
65	安田 梓二	武蔵野台地に生育するアカマツ大径木の分布とその生育環境	磯谷	野口
66	菅原 敏春	葛飾区亀有における工業と大型小売店が地元商業に与える影響	加藤	宮地
67	金島 咲実	高円寺の商店街のイメージ -パル、ルック、純情、あづま通り、各商店街を事例として-	内田	野口
68	日向 史朗	九段南4丁目・九段北4丁目の空間利用	加藤	長谷川
71	真分 純也	小売業競争激化に伴うコンビニチェーンの経営戦略の変化とその意義 -栃木県宇都宮市におけるコンビニエンスストアの立地展開と取扱商品からの考察-	宮地	加藤

番号	氏名	題目	主査	副査
13:00~16:05 <進行：長谷川>				
72	早川 尚希	札幌市バス交通の現状と課題	岡島	内田
74	舟木 和俊	島根県松江市における水田畦畔の植生 －棚田と平野部および畦畔微地形の種組成の違いに着目して－	磯谷	野口
75	高麗 幸大	中部地方における神社と信仰の分布についての考察	内田	岡島
78	平澤 孝教	茨城県鹿島灘の海岸植生にヘッドランドが与える影響について	磯谷	長谷川
81	久保田由佳莉	都市公園緑地における樹林の階層構造の有無と鳥類の種組成・生態との関係について	磯谷	野口
87	石井 玲子	江戸切子産業の概要と変化	加藤	岡島
89	安納 宏樹	近世後期の日光道中宿場町における経営と構造 －雀宮宿・石橋宿を事例に－	岡島	内田
90	黒木 涉	重伝建地区における町並み保存運動に対する住民意識について －日田市豆田町を事例に－	岡島	宮地
91	青野 隆	新潟県上越地方の水田畦畔植生 －平野部と山地部を比較して－	磯谷	野口
005	松岡 真雄気	明治・大正期における煉瓦製造業の展開と流通構造 －埼玉県を事例として－	岡島	加藤

【国士舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる者は、国士舘大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、**至急支払い**ください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ**払うこととなりますので、早めに納入することを勧めます**。会費未納者は、必ず**1月末までに郵便振替で会費を納入すること**。期日内に納入しなかった者については、**保護者宛てに督促状を送ります**。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国士舘大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

（注：疑問・質問等は会計担当の内田まで連絡して下さい。なお、上記は12月18日現在の未納者です）